



こんにちは。ちょっとご無沙汰しました。今回から Vol.3 をスタートします。英語通信 Vol.2 の最終回で予告した通り、Vol.3 は、少し内容を変えて、年4回発行の予定をしています。これまでの英語通信では「英語」という言語のトピックをお伝えしてきました。Vol.3 では、英語教育の現場に携わる人に取材した新しいコーナーの **The Voices** を設け、これからの英語教育についてお話ししていきたいと考えています。



Yeah 君、Please ちゃん、Vol.3 もどうぞよろしく。早速ですが、2020 年は何の年か分かりますか？



東京オリンピック・パラリンピックが開催される年！

そうですね。日本でのオリンピック・パラリンピック開催は楽しみですが、日本の教育での大きな話題は、大学入試センター試験が廃止される年だということです。通称“センター試験”と呼ばれるものを知っていますか？



はい、日本の大学の共通入学試験のことですよ？

そうです。国公立大学の一次試験的な役割を果たすと同時に、多くの私立大学が入試の一部に採用してきました。



その試験が廃止になる・・・って、大学入試がなくなる？やったー！誰でも大学に入れる時代がきた！



ばかね、そんなわけないでしょ。今までとは違うテストになるのですよね？

少子化で大学全入時代と言われていても、さすがに試験はなくなりませんね。現在実施されている大学入試センター試験が 2020 年に廃止され、翌年より「大学入学共通テスト」が採用されます。ということは、今春に中学を卒業した生徒で、大学進学を希望する人の代からこの新しいテストを受験するということになります。この 2021 年に実施される入試で一番の変わるのが英語の試験内容です。



どう変わるのですか？

これまでの「読むこと」(文法・読解)「聞くこと」(リスニング)に加え、「話すこと」「書くこと」のテストが実施されます。従来のマークシート方式で「話すこと」「書くこと」を評価できないため、この2部門は大学入試センターが認定した実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL などの民間資格試験利用することになります。



え～じゃあ、大学入試の前にこういう試験を受けなきゃいけないってこと？

そういうことになります。しかし、まだ、現時点(2018年4月下旬現在)では、どの大学が、何をどのように活用するか、すべてのガイドラインがはっきりしているわけではありません。

ただ、これからの英語教育では「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能をバランスよく習熟することが

目標になってくると思います。



俺、日本語でさえちゃんと書けないのに…英作は難しいよ。



それに、私も、英語で聞かれてすぐに答えられなくて、いつも、後で“ああ、こういえばよかった”って思うの。

新しい学習指導要領では、2020年から小学校3・4年の中学年で外国語活動が取り入れられ、5・6年の高学年では、英語が教科になります。ということは、小学生から英語という外国語に触れる機会が増えるということになります。あくまでも私の個人的な意見ですが、取り組み年齢が早ければ4技能の習熟度が早くあがる、というものではないと思います。そこで、Yeah君もPleaseちゃんも不安を感じるこれからの英語学習にどう取り組んでいけばよいかを少しずつ考えていきたいと思っています。



よろしくおわがしませ〜す。



「日本人は英文法を一生懸命学びすぎるので英語を話すのが苦手」というような都市伝説めいた話がありますが、これは真実ではありません。文法を学ぶのは、まず言語のルールを知るためです。例えば、野球のようなスポーツでも、ルールを無視してボールを投げたり、バットを振り回したらゲームにならないですよね？日本人特有の気質なのか「文法を学んだ以上、文法的に間違っただけを話すのは恥ずかしい」と考えることが、苦手意識につながっているのではないかと推測します。

スピーキングの第一歩は、もし英語を話す機会が与えられたとしたら、間違いを気にせずにどんどん積極的に発言する、ということがポイントになります。相手によっては、間違いを訂正してくれたり、また「こういう意味ですか？」と聞き直してくれたりするので、ここが学習のポイントです。



なるほど〜。

そして、Yeah君がさっき言った「日本語でもできないのに…」というのが一つの大きなポイントになります。たとえば、「書く」ことにしても意見を「発表」することにしても、まず、自分に考えや意見がなければできません。これは当たり前のことですね。ところが、私たちはいきなり英語で書く、発表することばかりに心を奪われがちです。何語であろうと、まずは、自分の考えや意見を持つ習慣を身につけることこそが大切だと私は考えています。たとえばニュースを見たり、読んだり、あるいは人の話をきいたときに「自分ならどう考えるか」「なぜそう考えるか」などを思い浮かべる習慣をつけてみてください。



今回、お伝えしたのは、本当に基本的なことで、準備運動の前の深呼吸のようなものです。私自身も手探りですが、皆さんの役に立つ情報を配信していきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



大阪府教育庁市町村教育室小中学校課教務グループの八幡泰輔主任指導主事にお聞きしました。

これからの英語教育では、「4技能」の中の“話すこと”が「やりとり」と「発表」の二つに分かれ5領域になり、授業内でのスピーキングの割合も増えてくるかと思っています。大阪府教育庁では、生徒のスピーキング力を育成するために、各市町村から推薦していただいた英語科の先生方を対象に、研修を実施しています。

授業中に英語で話す時間が増えることで、ただ単にコミュニケーション場面を設定したやりとりだけでなく、自分の考えなどを伝えあえる力をつけてもらいたいです。また、スピーキングテストなどは、それぞれの学校で工夫して実施されていますが、私たちも情報を集めて研究し、現場でお役に立てるようなサポートをしていきたいと考えています（談）